

特集

火災から命を守る防火のヒント

住宅火災の現状



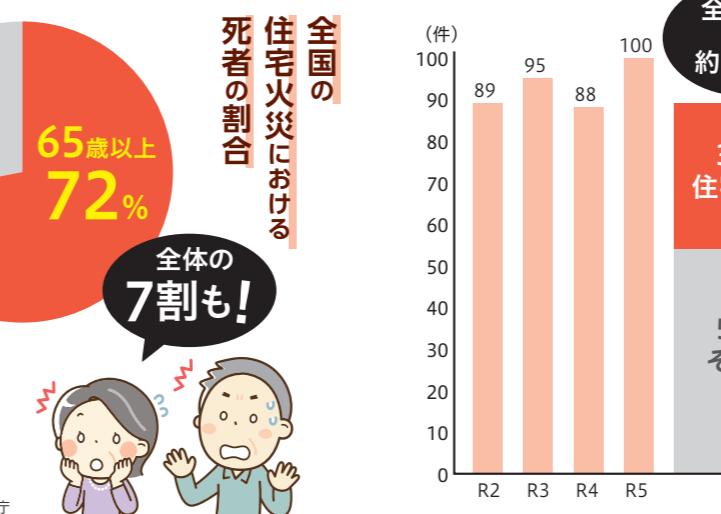
住宅火災は財産だけでなく、自身や家族の命までも危険にさらすものです。

住宅火災の件数は、全国で年間1万1839件、1日に換算すると約32件、約45分に1件の割合で発生しています。岡崎市においても火災件数89件のうち35件が住宅火災で全体の約4割を占めています。

住宅に潜む火災の危険と予防対策について考えてみましょう。

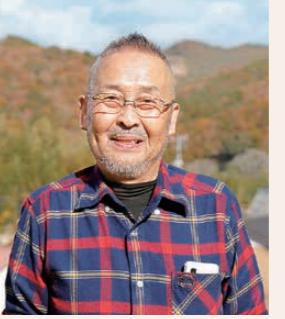
住宅火災の出火原因は?

住宅火災の原因は、こんろ、電気機器(リチウムイオン電池、配線器具)、たばこが上位を占めます。近年では、電気火災が増加傾向にあり、電気機器本体、配線器具(コンセント、テーブルタップ、コードなど)の不具合や、過負荷、経年劣化などが主な原因となっています。その死因は**逃げ遅れや出火後の再進入**が全体の約半数以上を占めています。



岡崎市の総火災件数

自宅の防火対策



桜山町在住の吉口さん
78歳

16年間、地元の消防団に在籍し、実際の火災現場を何度も体験しました。火災は全てを焼き尽くします。当たり前のことですが、コンセントをたこ足にせず、こまめに掃除をして埃をためない。冷蔵庫など大型家電の裏の掃除も行う。地震に備えて薪ストーブを固定するなど、絶対火災を出しきてはいけないと想い、自分でできることから取り組んでいます。

住宅用防災機器

防災機器はホームセンター、家電販売店などで購入できます。

かんしん 感震ブレーカー

大地震時には広範囲で長時間に及ぶ停電が発生するため、停電復旧後の再通電時に出火する「通電火災」に注意が必要です。

震度5強相当以上の揺れを感じたとき、ブレーカーやコンセントの通電を自動的に遮断し火災を防ぎます。

地震時の通電火災を防ぐ



住宅用火災警報器

火災の早期発見



住宅用消火器

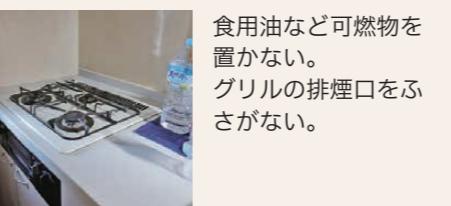
火災の初期消火



小型・軽量で高齢者にも扱いやすくなっています。万が一の火災発生に備えて準備し、使い方を確認しておきましょう。

ポイント

・ガスコンロ周りの整理整頓を！



食用油など可燃物を置かない。
グリルの排煙口をふさがない。

・線香の後始末はしっかりと！



灰に残った線香はピンセットで抜く。
灰の中に短い線香が溜まりそこに火種がつくと突然燃え上がることがあります。

予防課
☎21・9859 FAX21・9821

